



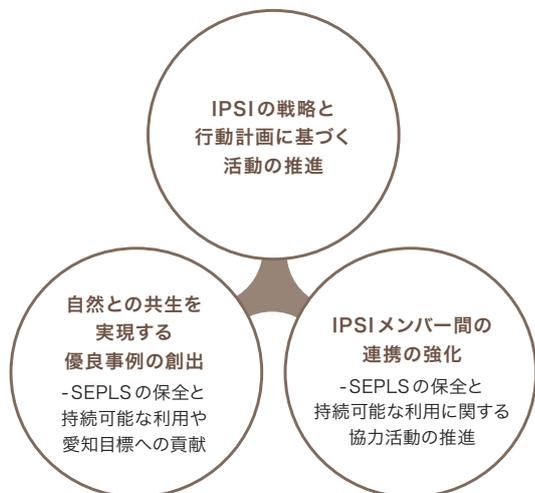
2015年度 SATOYAMA 保全支援 メカニズム (SDM)

SATOYAMA 保全支援メカニズム (SDM) とは？

2010年、名古屋で開催された生物多様性条約締約国会議を契機に設立されたSATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) は、多くの協力団体とともに社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ (SEPLS: 日本では一般に里山里海と呼ばれています) の保全と持続可能な利用の推進に努めてきました。SATOYAMA 保全支援メカニズム (Satoyama Development Mechanism: SDM) は、IPSIメンバーによるこうした活動をさらに推進するため、2013年に地球環境戦略研究機関 (IGES)、国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) および環境省の共同により設立されました。

SDMの目的

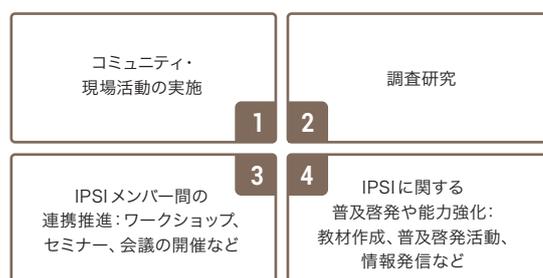
SDMは、IPSIメンバーによる応募の中から選ばれた、SEPLSの保全と持続可能な利用に関する優良事例となるような有望なプロジェクトに資金協力をを行うことにより、IPSIの戦略と行動計画に基づく活動を推進することを目的としています。これにより、生物多様性条約の掲げる愛知目標の達成に向けて、SEPLSにおける生物多様性の保全や向上に貢献することをめざします。SDMは実施団体が他の資金源から出資を受けることを奨励しているため、少額であってもプロジェクト実施によるメンバー間の連携強化やプロジェクト終了後のさらなる活動の展開が期待されます。実施団体による優良事例はIPSIを通じて広く発信されています。



支援の対象

IPSIメンバーによる応募の中から選ばれたプロジェクトには、SEPLSの保全と持続可能な利用に関する活動の実施やモニタリング、情報発信などに必要な資金およそ100万円が提供されます。IPSIの戦略と行動計画

に沿った様々なプロジェクトが支援の対象になりますが、特に他のIPSIメンバーにとって有用かつ応用可能な優良事例となるような、4種類の活動を想定しています。



2014-2015年度採択プロジェクトの一覧

2014年度

団体名	プロジェクト名	国	活動の種類
AERF (NGO)	インド・西ガーツ地方北部の里山ランドスケープ保全に向けたグリーンビジネスの推進	インド	コミュニティ・現場活動
A Rocha Ghana (NGO)	ガーナ・エフツ伝統地域の社会生態学的ランドスケープ保全に向けた「聖なる森」の再生	ガーナ	コミュニティ・現場活動
台湾国立東華大学 (研究機関)	SATOYAMAイニシアティブ概念の国と地方への適用: 台湾の先住民コミュニティにおける文化的な水田ランドスケープの管理に向けた共同計画プロセスのケーススタディ	台湾	コミュニティ・現場活動
APAIC (NGO)	ペルー南部沿岸半乾燥地の荒地におけるタラ林再生後の生物多様性連鎖の評価	ペルー	調査研究
Landcare Germany (NGO)	カルパチア山地ボガニ・ハバシュ地域の文化的ランドスケープ保全に向けた共同保全活動の推進	ルーマニア	IPSIメンバー間の連携推進
SPREP (国際機関)	健康な島々、海と人々	太平洋地域	IPSIに関する普及啓発や能力強化

2015年度

団体名	プロジェクト名	国	活動の種類
IORA (NGO)	ステーキホルダー参加型の非木材林産物・農産物の持続可能な生産とマーケティングによる農村生計向上	インド	コミュニティ・現場活動
SPERI (研究機関)	フンソン上流域におけるSEPLSの持続可能性の確保: 地域的に価値の高い樹種の樹林再生に向けた苗木育成、植林、現地モニタリングの実施	ベトナム	コミュニティ・現場活動
Conservation Alliance International (NGO)	統合型地理情報モニタリングシステムによるガーナのカカオ生産林の管理向上	ガーナ	コミュニティ・現場活動
APAIC (NGO)	ペルー沿岸地域の気候変動影響緩和と戦略に向けて: エル・ニーニョ現象への対応	ペルー	IPSIメンバー間の連携推進
EPIC (NGO)	SATOYAMAイニシアティブ・ウガンダ全国ネットワーク・ワークショップ	ウガンダ	IPSIメンバー間の連携推進
Environmental Education Centre Zapovedniks (NGO)	文化的ランドスケープを活用した持続可能な地域開発	ロシア	IPSIに関する普及啓発や能力強化

2014年度採択プロジェクトの概要

1 インド・西ガーツ地方北部の里山ランドスケープ保全に向けたグリーンビジネスの推進

AERF India

西ガーツ地方北部は豊かな文化・生物多様性をもつことで知られています。しかし、森林のほとんどは保護区指定のない私有地であることに加え、生物多様性や生態系サービスが地域住民の生活に果たす役割についての理解は十分ではなく、また保全することの実利も乏しいため、森林から農地への大規模な転換、生物多様性の喪失や生態系の劣化が進んでいます。このプロジェクトでは上記のような脅威に立ち向かうため、地域住民の経済的ニーズと生物多様性保全とを両立させることを目指し、保全価値の高い植物を持続可能な形で利用する製品を開発し、販売網を確立しました。



2 ガーナ・エフツ伝統地域の社会生態学的ランドスケープ保全に向けた「聖なる森」の再生

A Rocha Ghana

エフツ伝統地域では、毎年「シカ狩り」祭りに、コミュニティが共同管理する神聖な狩場で伝統的な戦士が野生のシカを素手で捕獲する競争が行われます。しかし、過去3年間の「シカ狩り」祭りではシカがまったく獲れず、シカの数も近年急速に減少し、近い将来にはこの地域から消滅することが危ぶまれています。これはエフツの人々の連帯を保ってきた伝統的な祭りの終焉を意味することから人々の間で重大な関心事となっています。このプロジェクトでは、狩場への直接、間接の脅威を取り除くため、狩場の資源に関する伝統的な利用ルールを明文化と取締りの強化、普及啓発、植林が行われました。



3 SATOYAMAイニシアティブ概念の国と地方への適用：台湾の先住民コミュニティにおける文化的水田ランドスケープの管理に向けた共同計画プロセスのケーススタディ

台湾国立東華大学

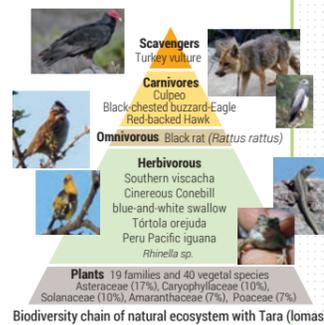
台湾では2005年の法改正で文化遺産保護法に「文化的水田ランドスケープ」の条項が明記されました。文化的水田ランドスケープは、地域住民と風土との相互関係に注目する、台湾では新たな考え方です。このプロジェクトでは、花蓮地方の文化的水田ランドスケープ地域候補地の管理計画策定に向けて、SATOYAMAイニシアティブの枠組みや共同計画アプローチの適用可能性を検討しました。



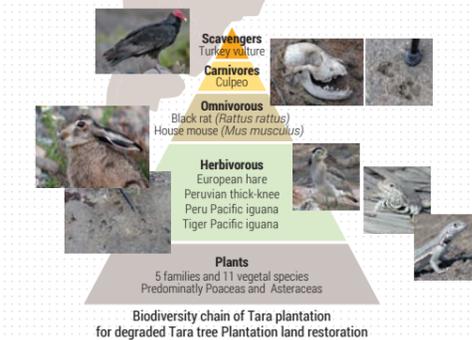
4 ペルー南部沿岸地域半乾燥地の荒廃地におけるタラ林再生後の生物多様性連鎖の評価

APAIC

ペルー南部沿岸地域カマナ地方では、劣化した生態系の再生と地域住民の生活向上に向けて、水不足を前提とした新たな社会、経済、環境活動が求められています。このプロジェクトでは、半乾燥沿岸地域で以前に行われたタラ(Caesalpinia spinosa)林再生プロジェクトによる水、土、植生、動物相への影響を評価するとともに、この結果に基づいてペルー南部沿岸地域の荒廃地を再生するための戦略を作成しました。



4 ペルー ガーナ ウガンダ



5 カルパチア山地ポガニ・ハバシュ地域の文化的ランドスケープ保全に向けた共同保全活動の推進(ルーマニア)

Landcare Germany

ルーマニアとドイツには生物種の豊かな山地が広がっていますが、その価値が十分に認知されず危機にさらされているという共通の課題をもっています。このプロジェクトでは、ドイツのNGOであるLandcare Germanyとルーマニアの現地NGO、Pogany-havas Regional Associationとのパートナーシップを強化し、文化的ランドスケープの共同管理に関する経験や知識を共有しました。これにより、共通する課題の解決策を特定し、地方再生や、文化的ランドスケープとその生物多様性の保護に貢献する活動を推進していきます。



6 健康な島々、海と人々 (太平洋諸島)

SPREP

太平洋地域は狭小な陸域と広大な海域の生態系からなる独特なランドスケープ・シースケープを有し、人々の生計や健康はこのような生態系に強く依存しています。しかし、こうした生態系は外部からもたらされる変化に対してとても弱い脆弱です。このプロジェクトでは、以前にサモア、ナウル、トンガで行われた生物多様性簡易アセスメントからの提案事項をふまえて、またSATOYAMAイニシアティブの概念、国ごとの生物多様性国家戦略や愛知目標を考慮して、太平洋諸島の生物多様性のもつ価値について人々の認識を高め、ランドスケープ・シースケープの持続可能な利用を推進するためのツール集を開発します。

2015年度採択プロジェクトの概要

1 ステークホルダー参加型の非木材材産物・農産物の持続可能な生産とマーケティングによる農村生計向上(インド)

IORA

インドのマディヤプラデシュ州マンドラ地区では、多くの先住民族のコミュニティが森林に隣接し、自給農業と家畜飼育に加え、森林資源に依存して生計を立てています。しかし、近年の市場拡大に伴う森林資源の過剰の利用により、資源の持続性が危ぶまれています。このプロジェクトでは、市場価値の高い非木材材産物の持続可能な収穫方法と販売網の確立、コミュニティ向けの飼料木植栽の推進、放牧地の休閑サイクルの推進などを含む、持続可能な開発と生計向上に向けた統合的アプローチを実践します。



2 フンソン上流域におけるSEPLSの持続可能性の確保：地域的に価値の高い樹種の樹林再生に向けた苗木育成、植林、現地モニタリングの実施(ベトナム)

SPERI

フンソン地区の自然林は、不十分な管理、違法伐採、天然ゴムやアカシアのプランテーションへの転換によって急速に失われつつあり、地域コミュニティの生計や文化を支え、野生動物の生息場所を提供する重要な樹林地もこれに伴って減少しています。このプロジェクトでは、以前の活動を通して各コミュニティに立ち上げられた農民野外学校(Farmers Field Schools)のしくみを活用して、樹林の再生とこれにまつわる伝統知の継承に取り組みます。



3 統合型地理情報モニタリングシステムによるガーナのカカオ生産林の管理向上

Conservation Alliance International

ガーナ中部カクム地区は、カカオ生産の基盤となる豊かな生物多様性にめぐまれています。しかし、カカオ生産者の生産性は低く、世帯収入も低い水準にあります。このプロジェクトでは、優良農法の導入により、カカオ生産者の生産性を向上させるとともに、レインフォレストアライアンス認証などの環境認証の基準に準じた農園管理に関する能力強化と地理情報システム(GIS)を活用したモニタリングの導入により、カクム国立公園を取り囲むカカオ生産地域における生物多様性保全を推進します。



4 ペルー沿岸地域の気候変動影響緩和戦略に向けて：エル・ニーニョ現象への対応

APAIC

ペルー沿岸地域の実に300万ヘクタールは、非常に乾燥した気候にエル・ニーニョ現象の影響も相まって、不毛の地、あるいは荒廃地と呼ばれています。しかし近年の研究では、乾燥地であっても換金作物栽培や林業、アグロフォレストリーといった開発の可能性があることが示されています。このプロジェクトでは、不毛の地からの再生に向けた国家戦略計画の策定と、関係する組織がその実施に向けて連携・参画していくための体制づくりに取り組みます。

5 SATOYAMAイニシアティブ・ウガンダ全国ネットワーク・ワークショップ

EPIC

ウガンダでは、社会生態学的ランドスケープ・シースケープ(SEPLS)という概念は新しく、ほとんど知られていません。このプロジェクトでは、IPSIメンバーを含み関連する分野で活動する様々な機関やNGOから50名程度の参加を得て、ウガンダのSEPLSについて経験や知識、優良事例を共有するためのワークショップを開催し、ひいてはこうした団体からなるウガンダのSATOYAMAイニシアティブ全国ネットワークの設立を目指します。ワークショップの提言はウガンダの生物多様性国家戦略策定委員会にも共有される予定です。

6 文化的ランドスケープを活用した持続可能な地域開発(ロシア)

Environmental Education Centre Zapovedniks

ロシアの多くの農村地域では文化的ランドスケープが社会経済の中で認知されておらず、自然地域のツーリズムへの地域住民の参加が限定的です。ウラル地方のシュルガン・タシュ・ザボヴェドニクでは、地域の文化遺産の保護管理における自然保護官、地元団体と地域住民の連携が課題となっており、このプロジェクトでは、ステークホルダー間の対話を促し、地域の文化的・社会生態学的ランドスケープの長期的な保全利用に向けた協力関係の構築をめざします。



これまでの採択プロジェクトの 対象地域と活動内容の傾向

2013年のSDMの設立から2015年に至るまで、3回の公募により合計18件のプロジェクトが採択されました。2016年4月時点ではこのうち10件が完了し、8件が実施中です。計18件の採択プロジェクトを地域別、活動内容別にみると右表のような構成になっています。

	アジア太平洋地域	アフリカ地域	アメリカ地域	ヨーロッパ地域	計
コミュニティ・現場活動	6	2			8
調査研究	1	1	1		3
IPSIメンバー間の連携推進		1	2	1	4
IPSIに関する普及啓発や能力強化	1			2	3
計	8	4	3	3	18

完了プロジェクトからのメッセージ

- 生物多様性保全に向けた計画づくりは地域から始めることが大事。これにより計画実施について地元のオーナーシップが高まり、生物多様性国家戦略の実行に意味のある貢献ができる。
(KAFCOL・ネパール)
- 保護地域外の生物多様性保全は、土地所有者が保全の実利を理解し、尊重して初めて可能になる。私たちは生物多様性が隣接して暮らす人々にどのような利益をもたらすのか、もたらし得るのかを知るべきであり、場合によっては利益を科学的に証明することが有効である。
(Nature and Livelihoods・ウガンダ)
- 人間活動の影響により成り立つ自然環境の価値や文化的ランドスケープの効果的な管理に向けて様々なステークホルダーの関心を集めるために、自然資源の持続可能な利用の推進が鍵になる。
(Environmental Education Centre Zapovedniks・ロシア)
- 生物多様性保全の長期目標の達成のためには、これに向けた明確な目的意識をもった地域住民の能力強化が欠かせない。
(AERF・インド)
- コミュニティによる生物多様性保全では参加型アプローチが成功の鍵。十分な情報と権利を与えることで、コミュニティは自らの環境を守るために前進することができる。
(A Rocha Ghana・ガーナ)
- SATOYAMA イニシアティブやIUCNのランドスケープ保護の枠組みに基づく参加型ランドスケープアプローチは農村地域の地域住民に歓迎される。これにより、国の保護地域制度において新たな「生きた」ランドスケープ保護のスタイルをつくりだすことができる。
(国立東華大学・台湾)



次回の公募予定

2017年の夏頃に第5回目のSDMプロジェクトの公募を予定しています。公募情報は、SDM事務局からIPSIのネットワークやSDMウェブページを通じて公表される予定です。SDMによる公募、選考や支援の手続きや基準などの詳細についてはSDMウェブページ(英文)*をご覧ください。

* Satoyama Development Mechanismで検索、またはブラウザに
<http://www.iges.or.jp/en/natural-resource/bd/sdm.html>
とご入力ください。

Satoyama Development Mechanism

検索

この出版物の内容はSDM事務局の一員としてIGESが作成したものです。平成28年10月発行
©2016 Institute for Global Environmental Strategies. All rights reserved.

公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES)

〒240-0115 神奈川県三浦郡葉山町上山口2108-11
TEL: 046-855-3700 FAX: 046-855-3709 Email: iges@iges.or.jp URL: http://www.iges.or.jp